

はしど



平成29年 1月31日
学校便り 第10号
練馬区立橋戸小学校
校長 河崎 晃二

<http://www.hashido-e.nerima-kyo.ed.jp/>

☆学校教育目標

考える子・思いやりのある子・たくましい子

あ い さ つ

校長 河崎 晃二

1月は「いく」2月は「にげる」3月は「さる」と、よく言われていますが、あつという間に2月の声を聞くようになってしまいました。立春も間近になり、光の春と言われるように、日差しが少しずつ目にまぶしく暖かく感じられるようになってきました。校庭の木々の芽も膨らみはじめ、開花の機会を待ち望んでいるようです。

今回の学校だよりには、昨年行いました「橋戸小学校に関するアンケート調査」の結果を掲載しました。その調査の「すすんで挨拶や返事をする」項目を見ると、児童の肯定的評価の割合が87%に対して、保護者は33%でした。とても大ききなひらきがあり、驚いてしまいました。子供たちは、自分ではしっかりと挨拶をしているという意識が高いけれど、それが周りには伝わっていないということが分かりました。

挨拶の「挨（あい）」には、心を開くという意味、「拶（さつ）」には、その心に近付くという意味があります。挨拶とは、自分の心を開くことで、相手の心を開かせ、相手の心に近付いていく積極的な行為です。そして、「あなたの存在を見付けました。よろしくお願いします。」という人間関係をスタートさせるためのコミュニケーションの第一歩と

いえます。ですから、自分では挨拶をしたつもりでも、小さい声で「どうも」とか、「おはようございます。」というだけでは、相手にきちんと伝わる挨拶とはいえません。相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めてするのが挨拶の基本となります。

また、挨拶は「心と心をつなぐ窓」とも言われています。人と人との間には窓があって、気持ちのよい挨拶ができると、その窓を通して相手の心に気持ちのよさが伝わります。逆に、元気がなかったり、いやいや挨拶したりすると、そのいやな気分が相手に伝わってしまいます。

子供たちにもう一度「挨拶」についてしっかりと考えさせ、気持ちのよい挨拶と心温まる言葉が行き交う学校にしていきたいと考えております。ご家庭でもご指導をよろしくお願いします。

さて、話は変わりますが2月9日(木)に、リオパラリンピック・メダリスト(水泳)の木村敬一選手が来校します。2020年東京オリンピック・パラリンピック教育の取組の一環です。木村選手には実際にメダルを持ってきていただき、お話を伺います。短時間ではありますが、木村選手と子供たちとのよい交流ができたらと思っております。